

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

I D S により米特許庁に提出する引例の英訳

Lid lock apparatus for car glove box

Patent number: JP58039347

Application Date: 1981/Sep/09

Inventor: Takashi Sonoda

Applicant: Daihatsu Industries Co. Ltd.

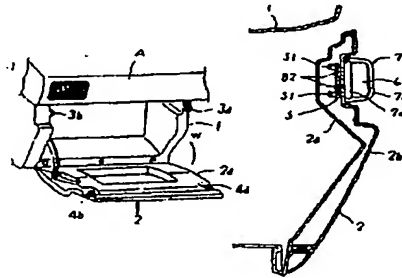
Application number: JP56134920

④

Abstract of JP58039347

Conventional lid lock apparatus for car glove box is that the arrangement of the engagement between a bolt and a striker is located at the center of the lid only, therefore at the both side of a wide lid it rattle or has space.

This present lid lock apparatus composed that a pair of bolts (4a), (4b) slidably supported horizontal direction on the lid (2), a spring for outwardly biasing the bolts (4a), (4b) and a rotor (5) with operating knob (6b) connecting to the bolts (4a), (4b). Therefore the bolts (4a), (4b) on the lid (2) can engage two strikers (3a), (3b) of an instrument panel (A) of car cause of they are protruded from the both side of the lid (2). As the result the glove box (1) can get rigid and stable closed position without rattling or unnecessary space.



参考

実開昭58-39347

概要

従来のリッドロック装置は、ロック爪とストライカとの係合を扉の中央上部で行っていたため、扉の幅が広くなると、扉の左右両側がガタついたり、完全に閉塞できなかつたりしていた。

本願リッドロック装置は、扉に摺動可能に支持し、左右方向に摺動するロック爪を対で設け、そのロック爪を外側に常時付勢すると共に、扉に設けた操作つまみと連動した回転体からなる。従って、扉の両側から突出するロック爪によって、計器盤にある二つのストライカと係合する。その結果グローブボックスはしっかりと安定した閉塞状態を得られる。



実用新案登録願 (3)

昭和 56 年 9 月 9 日

特許庁長官 島 田 春 樹 殿

1. 考案の名称 グローブボックスのリッドロック装置

2. 考案者

住所 大阪府池田市桃園 2 丁目 1 番 1 号
 氏名 ダイハツ工業株式会社内
 関 田 孝

3. 実用新案登録出願人

住所 大阪府池田市ダイハツ町 1 番 1 号
 氏名 (296) ダイハツ工業株式会社
 (同 籍) 代表者 大 原 榮

4. 代理人 590

住所 大阪府堺市住吉橋町 1 丁目 9 番 9 号 米沢ビル
 氏名 (6700) 弁護士 津 田 直 久

5. 添付書類の目録

(1) 明細書	1	通
(2) 図面	1	通
(3) 願書副本	1	通
(4) 委任状	1	通



方式
 審査



実開 58-39347

~~実開 58-39347~~

56 134920

545

明 細 表

1. 考案の名称

グローブボックスのリッドロック装置

2. 実用新案登録請求の範囲

グローブボックスに枢着したリッドのロック装置であつて、前記グローブボックスの左右両側に係止片を設けると共に、前記リッドに、前記係止片に係合する爪体を、それぞれ左右方向に移動自由に支持して、これら爪体を、前記係止片に係合する方向に付勢する一方、前記爪体を、前記リッドに支持する回転体に連結し、かつ、この回転体を前記リッドの外側に設ける操作つまみに連動的に連結したことを特徴とするグローブボックスのリッドロック装置。

8. 考案の詳細を説明

本考案は自動車に設けられるグローブボックスのリッドロック装置に関する。

従来のこの種リッドロック装置は、グローブボックスにおける開口部上縁の中央部分にストライカを設ける一方、前記開口部を覆うリッドの上

実開58-39347

~~主册58-30346~~

546

縁部中央に前記ストライカに係合するロック爪とこのロック爪を操作する操作体とからなるロック開閉機構を設けており、該ロック開閉機構のロック爪を前記ストライカに引掛けることで前記リッドのロックを行っている。

ところが前記ロック装置によれば通常前記グローブボックス換言すればリッドの幅方向長さが比較的大きいにもかかわらず前記リッドを閉じた時、該リッドの幅方向中央部のみが前記グローブボックスに係止されるにすぎず、従って、該リッドの左右両側部がガタついたりあるいは前記グローブボックスの開口部を完全に閉鎖できない虞れが多分にあったのである。

又、前記ロック開閉機構の取付位置もリッドの幅方向中央に限定されるため、特に運転席側からの前記リッドの開閉操作が不便となっていたのである。

而して本考案は従来のこの種リッドロック装置にまつわる前記した問題点を一挙に解消すべく考案したものであって前記グローブボックスの左

6

548

成る。

而して本考案は前記グローブボックス(1)の左右両側、詳しくは該ボックス(1)における開口部の左右両側縁上端部に断面略コ字状の係止片(3a)、(3b)を取付けるとともに前記リッド(2)に前記係止片(3a)、(3b)に係合する爪体(4a)、(4b)をそれぞれ左右方向(第4図矢印X-Y方向)に移動自由に支持し且つこれら爪体(4a)、(4b)を前記係止片(3a)、(3b)と係合する方向に付勢させる一方、前記爪体(4a)、(4b)を、前記リッド(2)に支持する回転体(5)に連結し、更にこの回転体(5)を前記リッド(2)の外側に設ける操作つまみ(6a)、(6b)に連動的に連結したのである。

即ち図に示す実施例では、前記リッド(2)を構成するアクタパネル(2b)の裏面で且つその左右両側部上端側に一对の案内棒(21a)、(21b)を形成し、この案内棒(21a)、(21b)に、先端を傾斜面(41a)、(41

550

させるべくしている。

一方前記操作つまみ（6 a）,（6 b）は、前記アタパネル（2 b）の外側に設けられるハウジング（7）に左右方向（第4図矢印X-Y方向）移動自由に支持しているのであって、この操作つまみ（6 a）,（6 b）の押圧操作により前記ハウジング（7）に回転自由に取付けたカム体（8）を介して前記回転体（5）を回転させるのである。

即ち前記ハウジング（7）は前記アタパネル（2 b）に固定するベース部材（7 a）と、このベース部材（7 a）に組付ける断面略コ字形の枠形部材（7 b）とからなり、又、前記カム体（8）は一侧に前記操作つまみ（6 a）,（6 b）の作用面（6 0 a）,（6 0 b）に当接する一対の操作突起（8 1）,（8 1）を、他側に前記回転体（5）を連結する連結片（8 2）,（8 2）をそれぞれ形成しているのであって、前記枠形部材（7 b）内に前記操作つまみ（6 a）,（6 b）をセットするとともに、前記ベース部材（7 a）に形成した挿通孔（7 1）に前記カム体（8）を遊挿した上で、

前記棒形部材(7b)とベース部材(7a)とを一体に組付けるのである。

そして前記ベース部材(7a)の裏面に形成した係合突起(72)、(72)を前記アウタパネル(2b)に形成した係合孔(23)、(23)に嵌合し、且つ前記ベース部材(7a)に形成したねじ筒(75)、(75)にアウタパネル(2b)の裏面側からビス(25)、(25)を螺着することにより前記ハウジング(7)を前記アウタパネル(2b)の外側に固定する一方、前記アウタパネル(2b)に穿設した貫通孔(24)より前記カム体(8)の連結片(82)、(82)をアウタパネル(2b)の裏面側に突出させ、この突出端部に前記回転体(5)を取りつけたのである。

尚、前記ベース部材(7a)と棒形部材(7b)との組付けは、前記棒形部材(7b)に形成した嵌合溝(73)、(73)に前記ベース部材(7a)の上下両端に設けた凸条(74)、(74)を嵌合させるべくして行なう。

又、前記ねじ筒(75)、(75)は前記操作つまみ(6a)、(6b)の抜け止防止用突起を兼用している。

本考案は以上の構成からなり、前記リッパ（2）を閉じた状態では前記コイルスプリング（40a）、（40b）の弾発力により前記爪体（4a）、（4b）は、対応する係止片（8a）、（8b）とそれぞれ係合している。

而して前記リッパ（2）を開けるには、前記操作つまみ（6a）、（6b）の押操作により該操作つまみ（6a）、（6b）の作用面（60a）、（60b）でもって前記操作突起（81）、（81）を押圧して前記カム体（8）並びに該カム体（8）に取りつけられている前記回転体（5）を第4図反時計方向に回転させ、これにより前記爪体（4a）、（4b）をスプリング（40a）、（40b）の弾発力に抗して係止片（8a）、（8b）より離脱する方向に移動させて、該爪体（4a）、（4b）と係止片（8a）、（8b）との係合関係を解除すればよいのである。

一方前記リッパ（2）を閉じるには、該リッパ（2）を第1図矢印W方向に回転すれば該リッパ（2）の閉鎖位置近くにおいて前記爪体（4a

）、（４ｂ）がその先端に設けた傾斜面（４１ａ）、（４１ｂ）を介してそれぞれ前記係止片（８ａ）、（８ｂ）を乗り越えると同時に前記スプリング（４０ａ）、（４０ｂ）の弾発力により、第４図に示す如く前記爪体（４ａ）、（４ｂ）が前記係止片（８ａ）、（８ｂ）に係合して前記リッド（２）をロックするのである。

以上説明した如く本考案によれば前記リッドの左右両側部に設けた一対の爪体を前記グローブボックスの左右両側に設けた係止片に係止する如くして該リッドのロックを行なうべくしたから前記リッドの閉鎖時、該リッドの左右両側部がガタついたりすることなく前記グローブボックスの開口部を確実に閉鎖することが出来るのである。

しかも前記爪体进行操作する操作つまみの取付位置は特に限定されることがなく、従って例えば運転席側からも容易に前記リッドの開閉操作が行なえる位置に設置することも可能である。

又、従来のように前記グローブボックスにおける開口部の中央上部にストライカが突出すると

とがないので物の出し入れが容易に行なえるのは勿論、グローブボックスの有効スペースを最大限利用することも出来るのである。

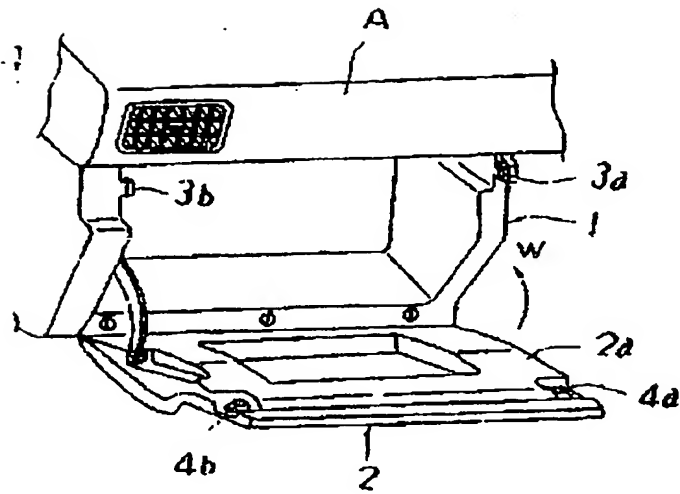
4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明リッドロック装置を備えたグローブボックスの斜視図、第2図はその要部の断面図、第3図は本発明リッドロック装置の分解斜視図、第4図は該ロック装置の概略説明図である。

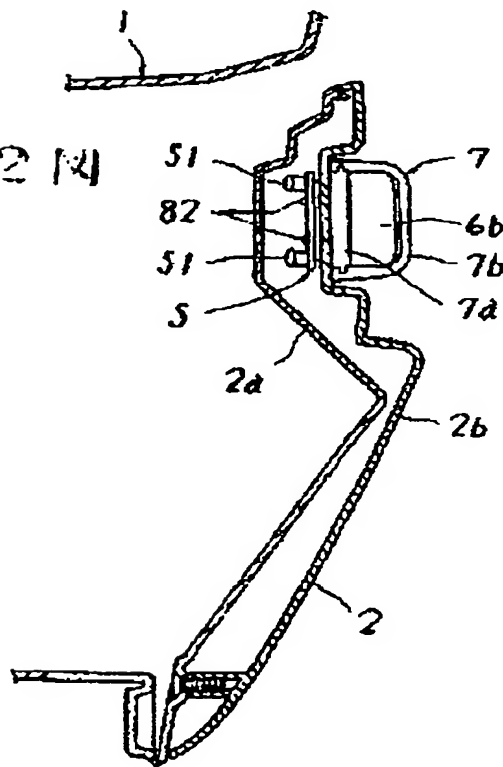
- (1) … グローブボックス
(2) … リッド
(3 a) , (3 b) … 係止片
(4 a) , (4 b) … 爪体
(5) … 回転体
(6 a) , (6 b) … 操作つまみ
(7) … ハウジング

代理人 弁理士 津 田 直 久

第1図



第2図



特開58 30147

~~特開58 30147~~

出願人 ダイハツ工業株式会社
代理人 弁護士 杉田直久 556

